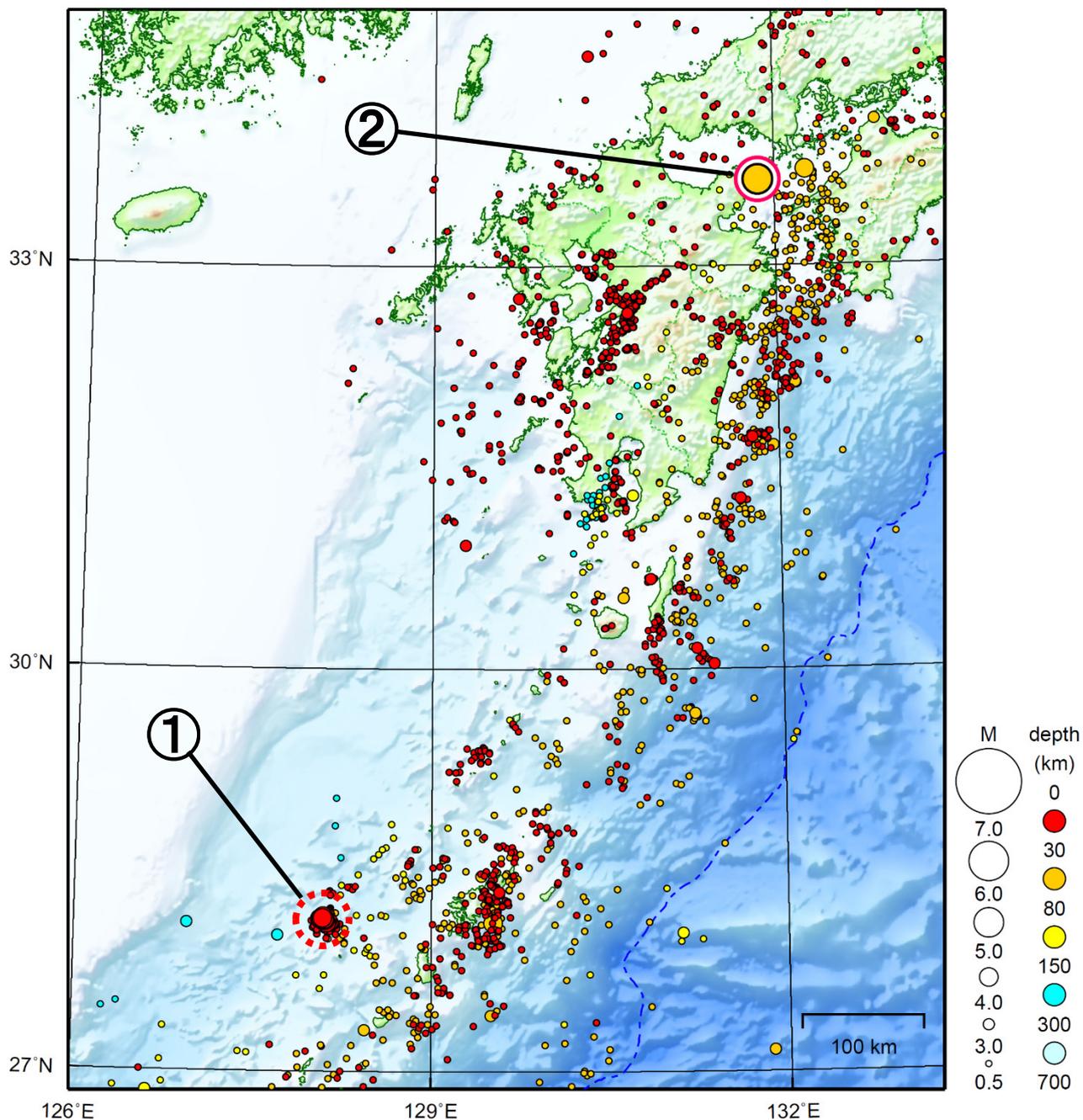


九州地方

2021/07/01 00:00 ~ 2021/07/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

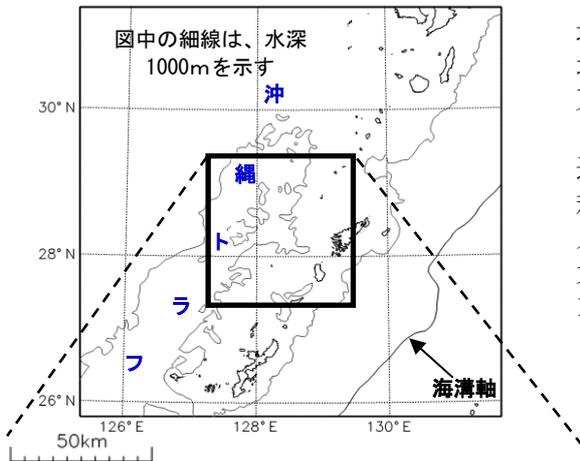
- ① 奄美大島北西沖では7月中に最大震度1以上を観測した地震が10回（最大震度2：5回、最大震度1：5回）発生した。
- ② 7月17日に伊予灘でM5.1の地震（最大震度4）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

奄美大島北西沖の地震活動 (奄美大島の西約 100km の地震活動)

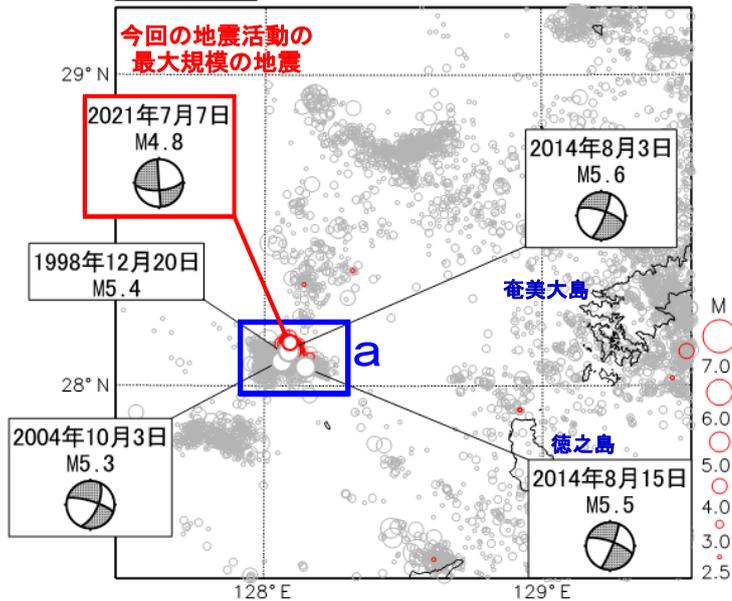
震央分布図
(1994年10月1日～2021年7月31日、
深さ0～50km、 $M \geq 2.5$)
2021年7月の地震を赤色○で表示
図中の発震機構はCMT解



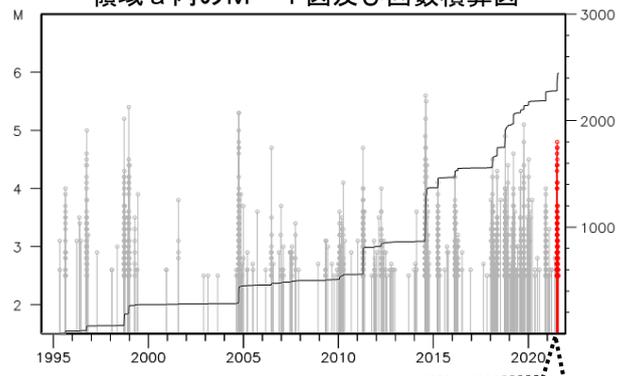
2021年7月4日22時頃から奄美大島北西沖(奄美大島の西約100km)で地震活動が活発となり、7月31日24時までに震度1以上を観測した地震が10回(震度2:5回、震度1:5回)発生した。今回の地震活動は、沖縄トラフ沿いの活動で、陸のプレート内で発生した。このうち、最大規模の地震は7月7日23時55分に発生したM4.8の地震(最大震度1)で、発震機構(CMT解)は北西-南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

1994年10月以降の活動をみると、今回の地震活動域付近(領域a)では、数年に一度M5クラスの地震を最大規模とするまとまった活動がある。このうち、2014年7月26日頃から8月下旬の地震活動では、M5.6の地震(最大震度3)を最大として、震度1以上を観測した地震が10回発生した。

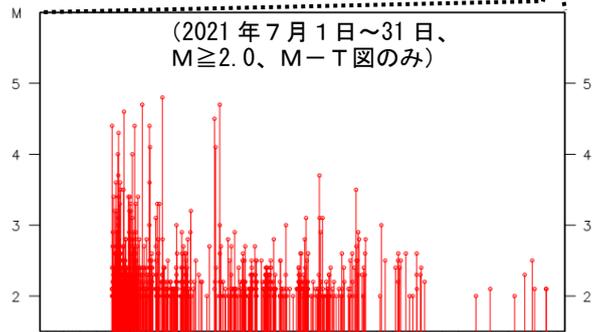
1919年以降の活動をみると、今回の地震活動域周辺(領域b)では、M6.0以上の地震が3回発生している。



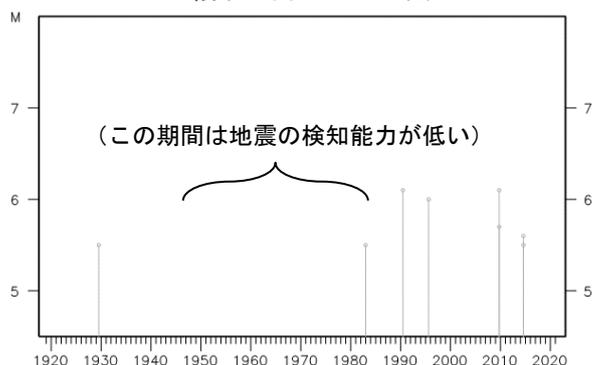
領域a内のM-T図及び回数積算図



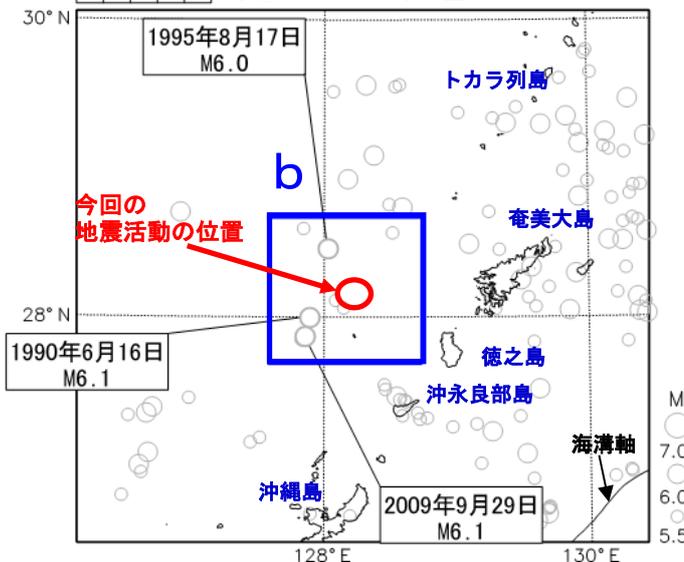
(2021年7月1日～31日、 $M \geq 2.0$ 、M-T図のみ)



領域b内のM-T図



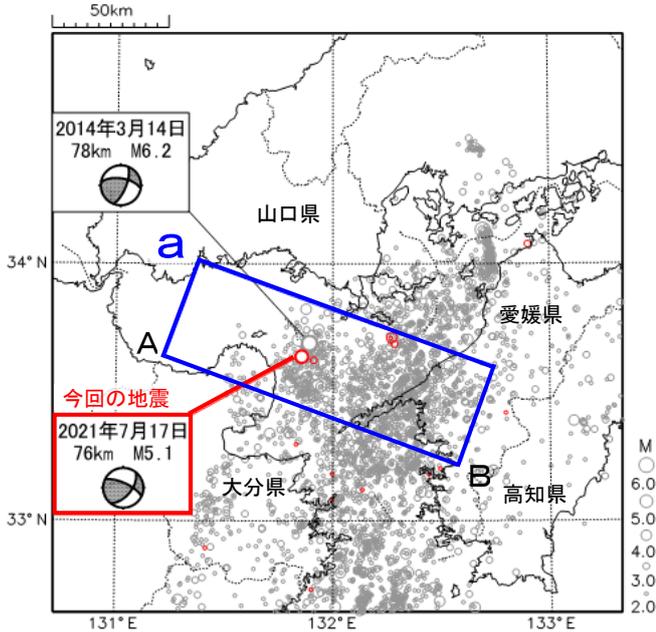
震央分布図
(1919年1月1日～2021年7月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.5$)



気象庁作成

7月17日 伊予灘の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2021年7月31日
深さ30～120km, $M \geq 2.0$)
2021年7月の地震を赤色○で表示

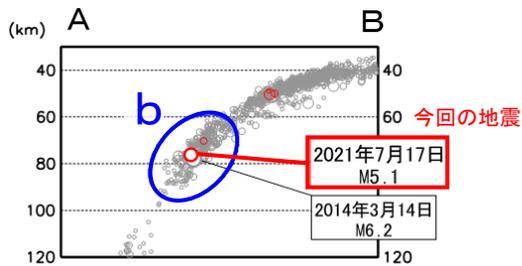


2021年7月17日20時50分に伊予灘の深さ76kmでM5.1の地震 (最大震度4) が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。この地震の発震機構は、東北東-西南西方向に張力軸を持つ型である。

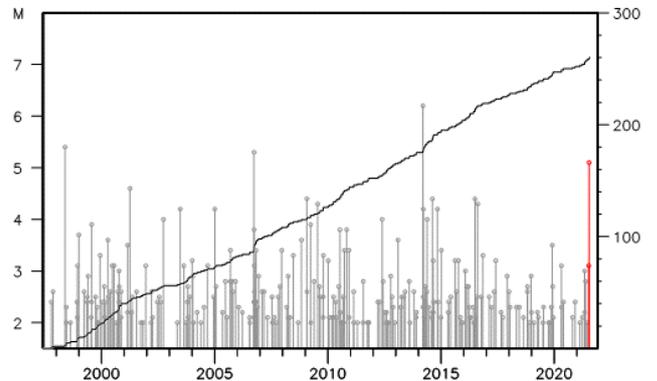
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、M4.0以上の地震が時々発生している。このうち、2014年3月14日にM6.2の地震 (最大震度5強) が発生し、負傷者21人などの被害が生じた (総務省消防庁による)。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M6.0程度の地震が時々発生している。このうち、1968年8月6日に発生したM6.6の地震 (最大震度5) では、負傷者22人などの被害が生じた。また、1983年8月26日に発生したM6.6の地震 (最大震度4) では、負傷者1人などの被害が生じた (いずれの地震の被害も「日本被害地震総覧」による)。

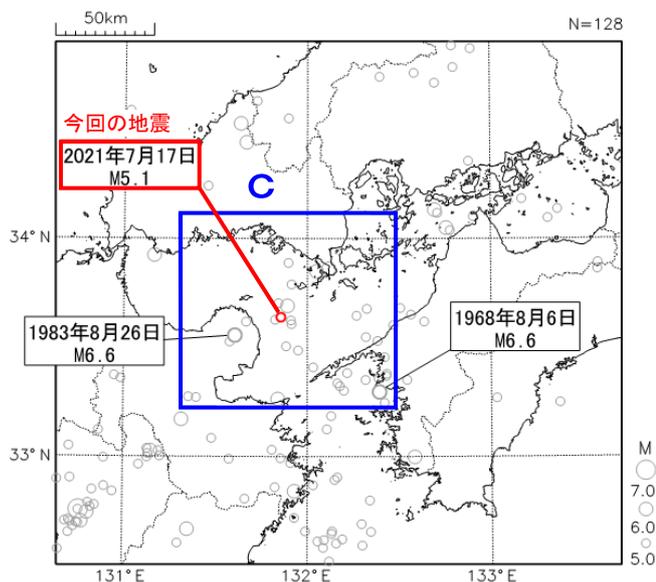
領域a内の断面図 (A-B投影)



領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図
(1919年1月1日～2021年7月31日、
深さ0～120km, $M \geq 5.0$)
2021年7月の地震を赤色○で表示



領域c内のM-T図

